

1 単元 長く続いた戦争と幸田町～ぼくたちが今できること～

2 単元の目標

- (1) 日中戦争や日本が関わった第二次世界大戦の推移と、当時の幸田町の様子や生活していた人々の思いや考えに関心を持ち、進んで調べようとするができる。(関心・意欲・態度)
- (2) 戦争とその頃の人々の生活や、大日本兵器工場で働いていた人々について学習課題をもつとともに、現在とのずれに気づきながら、当時の人々の考え方や願いについて考え適切に表現することができる。(社会的な思考・判断・表現)
- (3) 戦争とその頃の人々の生活や、大日本兵器工場で働いていた人々の思いについて、日記や体験した人々の話などの資料を活用するとともに、必要な情報を整理し、ノートなどにまとめることができる(観察・資料活用の技能)
- (4) 日中戦争から第二次世界大戦までの日本の歩みや、戦争が幸田町や他の地域の人々の生活に与えた影響について理解することができる。(社会的事象についての知識・理解)

3 子どもと教材のとらえ方

今年は学校開校130年の年であり、子どもたちもこの大きな節目の年を感じる機会が多くあった。そうした機会を通して、これまでの学校や学区の歴史に関心を持ち始めた子どもたちは、それと重ねながら歴史の学習も進めてきている。ところで、荻谷小学校の学校の近くにある中央公園は子どもたちにとって身近な場所の一つである。そんな中央公園の記念碑の裏に平成13年10月23日と記されていることに気づいた子どもたちは「それまでは、どんな場所だったの。」「三菱レイヨンの工場っておばあちゃんから聞いたことがある。」と、それまでの歴史に興味をもった。中央公園に残された工場の痕跡を探しに出かけた子どもたちは、地域の人からかつて機関銃の試射場として使われたトンネルがあったことを聞き、それは三菱レイヨン以前の大日本兵器工場の時のものであることを知った。「トンネルの場所ってどこだったんだろう。」「今から探しに行きたい。」など、子どもたちの関心は兵器工場の時代に向かった。こうした子どもたちの関心・意欲を出発点とし、現在は町民の憩いの場となっている中央公園がかつては兵器工場であった事実を追究することで、長く続いた戦争の時代を日本全体の歩みだけでなく、戦争に巻き込まれていった幸田町の様子やそこに生きた人々の考え方に迫ることができると考えた。また、お互いの調べを共有化したり、疑問を話し合ったりすることで調べたことや考えたことを自分の言葉や文字で表現できるようになってほしいと願っている。

本単元では日中戦争・太平洋戦争期の日本での人々の生活と、戦争がもたらした国内外の被害、またその中での人々の生活について学習する。幸田町でも、先に触れた兵器工場など、いくつかの痕跡をたどることができる。そこでは多くの学生が働かされ、危険な機械を扱って作業をしたり、トンネルの中で銃の試射を行ったりしていた。当時そこで働いていたOさんの話から、資料だけでは読みとれない当時の様子や人々の思いにも迫れるのではないかと考えた。また、東京から疎開してきたSさんの話を聞くことで幸田町の様子と日本全体とを関連付けながら国民も戦争へ総動員を求められ、気持ちを鼓舞させながら苦しい生活を生き抜いた人々の様子を学習し、現在の日本で平和に生活できる尊さに気づかせたい。

本時では、戦時中をたくましく生きた人々の思いを考える。これまでに直接話を聞いてきた様々な立場からの体験談や一人調べを基に、どんな思いでその時代を生きたのかを根拠をもって考え話し合う。子どもたちがより具体的に考えられるよう、「兵隊」「兵隊の家族」「兵器工場で働いた人」「空襲にあった人」「疎開した子ども」「子どもの家族」「集団自決をした人」など、立場を明確にさせる。そして、仲間同士でその理由を述べ合い自分の考えと比べたり結びつけたりすることで、当時の人たちも複雑な思いがあったことが明らかにできるだろう。そして、その思いを自分はどうとらえるか考えることが、将来の日本や自分自身の生き方についての考え方につながり、平和への強い思いをもちながら68年前の戦争について語り継ぐことのできる子どもに育ててほしいと願う。

4 単元構想（別紙）

5 本時の学習

(1) 目標

- ①戦時中に生きた人々の思いを立場を明確にして、根拠をもって考えることができる。
- ②戦争を生きた人々の考えと、今の自分の考えの違いに気づき、その理由を考えることができる。

(2) 準備

教師・・・センテンスカード、名札が貼られた考える立場のを示す表

児童・・・教科書、ノート、資料集

(3) 学習過程（45分）

学習活動〔発問と予想される反応〕	教師の支援と評価（※）
<p>1 本時の課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>戦争中、人々はどんな思いで生きたのか。</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(空襲を受けた人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつ死ぬかわからない。 ・だれも死んでほしくない。 ・家族を守りたい ・子どもを守りたい。 ・つらい。 </div> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(兵器工場で働いた人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・強制的。 ・怖い仕事。もういやだ。 ・勝てるはずがないのに作るのか。 ・勝つために一生懸命働こう。 ・国のためになる。 </div> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(兵隊)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生き残った兵士 ・早く日本が戦争をやめてほしい。 ・早く帰りたい。 ・日本は強いんだ。 ○死んだ兵士 ・日本が勝つため。決死の覚悟。 ・何で死なないといけないんだ。 </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(疎開)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子ども ・早く帰りたい。 ・母親とはなれるのはさみしい。 </div> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(集団自決した人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ軍に捕まるくらいなら・・・ ・自分だけ生きるのは恥 </div> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○家族</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心配で仕方ない。 ・顔が見たい。どんな形でもいいから生きて帰ってきてほしい。 ・国のためにがんばってほしい。 </div> </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>戦争</p> </div> <p>2. 当時の人々と今の自分の考えの違いについて考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>戦争中、自分が〇〇だったらどう考えるか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・つらい ・早く終わってほしい。 ・やめたいとは言えなかったかも。 ・兵隊に行かせない。 ・自分からは命を絶たない。 <p>3 本時の学習の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今では変だと思えることが、当たり前になっていた。 ・みんな、それぞれの立場で戦争の時代を一生懸命生きていた。 ・語ってもらえたことを忘れてはいけない。 	<p>・本時の課題を明確にするために、発問に対する思いが強くもつ子を第一発問者にして語らせる。</p> <p>・戦時中の人たちの身になって考え、その思いや考え方の違いにも気づかせるため、その人が置かれた状況や立場を明確にする。</p> <p>※これまでの学習で調べたこと、聞いたことを根拠にして、当時の社会状況を考慮しながら自分なりの考えを話すことができたか。（話し合い）</p> <p>・当時の人々の立場からの思いを考え、自分がその立場だったらとどうとらえるかを考えさせ、その違いに気づかせる。</p> <p>※当時の人々の思いを踏まえて、今の自分の考え方の違いに気づき、その理由を考えることができたか。（ノート・発言）</p> <p>※戦争を二度とくり返さないことを再認識し、そのために自分たちは何ができるのかを考えることができる。（ノート・発言）</p>

(4) 評価

B：立場を明確にした考えをもち、話し合いに進んで参加することができる。

A：関わり合いを通して、自分の考えをより深化させたり、視野を広げたりすることができる。

○本時の視点

立場を明確にして考えさせたことは、より具体的に当時の人々の思いに迫らせるために有効であったか。